

## 船舶事故調査報告書

平成24年10月25日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年4月28日 09時00分ごろ
発生場所	長崎県 <small>おぢか</small> 小値賀町 <small>のざき</small> 野崎島西岸 長崎県新上五島町所在の津和崎 <small>つわざき</small> 灯台から真方位036° 1,600m付近 (概位 北緯33° 10.4' 東経129° 07.4')
事故調査の経過	平成24年6月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第 <small>きょうりょう</small> 共漁丸、17トン NS2-13705（漁船登録番号）、エテルナ・ワコー株式会社 18.62m (Lr) × 3.69m × 1.97m、FRP ディーゼル機関、610.00kW、昭和62年7月6日
乗組員等に関する情報	船長 男性 33歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成11年3月5日 免許証交付日 平成21年2月16日 (平成26年3月4日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船首部及び左舷船首外板に破口、船底ソナーが損傷、左舷船尾外板に亀裂、プロペラ曲損
事故の経過	本船は、大中型旋網漁業船団の魚群探索船であり、船長が1人で乗り組み、平成24年4月28日06時00分ごろ新上五島町中 <small>なかとおり</small> 通島西方沖において、操業を終えて同船団の各船と一緒に帰航を開始し、対地速力約14ノットで自動操舵により北東進中、船長が操舵室の椅子に腰を掛けた姿勢でいつしか居眠りに陥り、野崎島西方沖の変針予定場所を通過して航行を続け、09時00分ごろ同島西岸に乗り揚げた。 本船は、船長が乗り揚げた衝撃で目覚め、無線で僚船に救援を依頼し、修理のために僚船にえい航されて長崎県佐世保市佐世保港に入港した。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風速 約3m/s、視界 良好 海象：波高 約1.0m</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、ふだん、船団の各船と共に16時ごろ出漁し、翌日05時ごろ操業を終えて帰航を開始していた。</p> <p>本船の喫水は、船首約1.0m、船尾約2.5mであった。</p> <p>船長は、本事故の前日には約7時間の睡眠を取り、睡眠不足や疲労が蓄積した状態ではなく、本事故当時は眠気を感じていなかった。</p> <p>船長は、これまでも自動操舵で帰航中、見張り等への注意が単調になったときに眠ってしまい、事故には至らなかったものの、ヒヤッとしたことが2、3回あった。</p> <p>本船は、居眠り防止装置の設置義務がなく、設置していなかった。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、野崎島西方沖を北東進中、船長が居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して野崎島西岸に向けて航行し、同島西岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、本船が自動操舵で帰航中、見張り等への注意が単調となったことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、居眠り防止装置を装備していれば、本事故の発生を防止できた可能性があると考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、野崎島西方沖を北東進中、船長が居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過して野崎島西岸に向けて航行し、同島西岸に乗り揚げたことにより発生したのと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航行中、眠気を催す虞があるときは、操縦席から立って操船し、外気に当たったり、ガムをかんだりして眠気を払拭すること。</li> </ul>